J

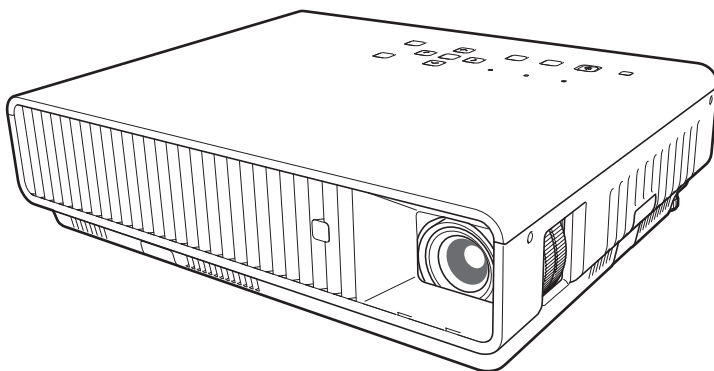
DATA PROJECTOR
XJ-M140/XJ-M145*
XJ-M150/XJ-M155*
XJ-M240/XJ-M245*
XJ-M250/XJ-M255*

（* USB端子付きモデル）

• 地域により販売されていないモデルもあります。

日本語

セットアップガイド

- この説明書は、お読みになった後も大切に保管してください。
- 本書の最新版は下記ウェブサイトに公開されております。
  http://casio.jp/support/projector/

この装置は、クラスＢ情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。 VCCI-B

この装置は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しています。

目 次

安全上のご注意……… J-1

使用上のご注意……… J-7

光源ユニットについて……… J-7
レーザーに関するご注意……… J-7
無線アダプター(USB端子付きモデルに付属)の使用に関するご注意……… J-7
その他のご注意……… J-8
本体の移動時の注意……… J-9
キャリングバッグへの収納について……… J-9
クリーニングについて……… J-9

内容物のご確認……… J-10

各部の名称……… J-10

使用前の準備……… J-11

リモコンに電池を入れるには……… J-11
設置するには……… J-11
設置場所に関するご注意……… J-12
角度を調整するには……… J-12
パソコンと接続するには……… J-13

投映の開始と終了……… J-14

投映を開始するには……… J-14
電源を切るには……… J-14

CD-ROMの使い方……… J-15

取扱説明書(PDF)を読むには……… J-15

インジケーター表示について……… J-16

故障かな？と思ったら……… J-17

主な仕様……… J-19

- DLPは、米国テキサス・インスツルメンツ社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vista、PowerPointは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia InterfaceはHDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- AppleおよびMacintoshは米国Apple Inc.の登録商標です。
- Adobe、Readerは米国Adobe Systems Incorporatedの登録商標です。
- XGAは、米国IBM Corp.の登録商標です。
- ArcSoft、ArcSoftロゴは、ArcSoft, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他本書に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本製品使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求につきましても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 故障、修理などに起因するデータの消失による、損害および逸失利益などにつきまして、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 取扱説明書に使用されている表示画面は、取扱説明書用に特別に作成されたもので、一部、実際の製品と異なることがあります。

安全上のご注意

このたびは本製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
本書は、お読みになった後も大切に保管してください。

絵表示について

この取扱説明書および製品での表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は「気を付けるべきこと」を意味しています。
（左の例は感電注意）

⃠記号は「してはいけないこと」を意味しています。
（左の例は分解禁止）

●記号は「しなければならないこと」を意味しています。
（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）

本機の使用上のご注意

⚠ 警告

●煙、臭い、発熱などの異常について

煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用しないでください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源プラグをコンセントから抜く。
2. お買い上げの販売店または修理に関するお問い合わせ窓口に連絡する。

●故障したまま使用しない

本書に従って正しく使用しても、画面が異常などの故障状態のまま使用しないでください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源を切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店または修理に関するお問い合わせ窓口に連絡する。

● 電源コードについて

電源コードは使い方を誤ると、火災・感電の原因となります。次のことは必ずお守りください。

- 必ず付属品を使用する
- 電源は、指定された電源電圧（日本国内では交流100Ｖ）のコンセントを使用する
- 1つのコンセントにいくつもの電気製品をつなぐタコ足配線をしない
- ストーブなどの熱器具に近づけない
- 付属の電源コードを、本機以外の電気機器で使用しない
- 他の電気機器と同じコンセントを使用しない。また、延長コードを使う場合は、延長コードのアンペア数値に注意する
- 電源コードを束ねたまま使用しない
- 非常時に電源プラグが抜けるように、電源プラグの周りに物を置かない
- 電源プラグは、必ずアース付交流100V（日本国内の場合）のコンセントに接続する
- アースの接続は、必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に行う
- アースを外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後に行う

電源コードは使い方を誤ると、傷がついたり破損して、火災・感電の原因となります。次のことは必ずお守りください。

- 重い物をのせたり、加熱しない
- 設置時にラックや壁などにはさみ込んだり、コードの上を敷物などで覆わない
- 加工したり、キズつけたり、無理に曲げない
- ねじったり、引っ張ったりしない

濡れた手で電源コードや電源プラグに触れないでください。感電の原因となります。

外出時は、動物・ペットが製品に近づけないようにして、電源コードはコンセントから抜いてください。電源コードに噛みついた場合、ショート（短絡）により、火災の原因となることがあります。

● 海外では使用しない

本機は日本国内専用機です。海外では使用できません。

● 水、異物はさける

本機に水のかからない状態で使用してください。水がかかると火災や感電の原因となります。

本機の上に花瓶など液体の入ったものを置かないでください。水がかかると火災や感電の原因となります。

水、液体、異物（金属片など）が本機内部に入ると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源を切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店または修理に関するお問い合わせ窓口に連絡する。

● 分解・改造しない

本機を分解・改造しないでください。内部には高圧部分が数多くあり、感電・やけど・けがをする原因となります。また、本機を分解・改造した場合は、保証および修理の対象外になります。

内部の点検・調整・修理はお買い上げの販売店または修理に関するお問い合わせ窓口にご依頼ください。

● 落とさない、ぶつけない

本機を落としたときなど、破損したまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源を切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店または修理に関するお問い合わせ窓口に連絡する。

● 火中に投入しない

本機を火中に投入しないでください。破裂による火災・けがの原因となります。

● 点灯中にレンズや吸気口／排気口／通気口をのぞかない

点灯中にレンズや吸気口／排気口／通気口をのぞきこまないでください。強い光が目に入り視力障害などの原因となります。

● 吸気口、排気口、通気口をふさがない

吸気口、排気口、通気口をふさぐと本機の内部に熱がこもり、火災・故障の原因となります。また、使用中に触れるとやけどの原因となります。次のことは必ずお守りください。

- 壁から30cm以上離して設置する
- 風通しの悪い場所に押し込まない
- 布などを掛けない
- じゅうたん・布団・タオルなどの柔らかい物の上や、座部の柔らかいイスなどに置いて使用しない(堅い平面に置いて使用してください)
- たてて使用しない

● プロジェクターのキャビネットを開けない

感電の恐れがあります。

● お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く

感電の原因となります。

● 排気口部について

投映中は排気口部が高温になりますので、触れないでください。また排気口部の近くは高温になりますので、プラスチック等の高温に弱い物をそばに置いたり、下に敷いたりしないでください。変形や変色する原因となります。

● 本機の電源を入れる前に、必ずレンズカバーを取り外す

投映中はレンズカバーを取り付けたままにしないでください。

● 次の場所での使用はしない

火災・感電の原因となります。

- 振動の多い場所
- 湿気やほこりの多い場所
- 調理台のそばなど油煙が当たるような場所
- 暖房器具の近く、ホットカーペットの上、直射日光があたる場所
- その他、高温や低温の所
(本機は5℃〜35℃の環境内でご使用ください)

● 本機の上に重い物をのせたり、本機の上に乗らない

火災・感電の原因となります。

● 水場や風呂場などの水に濡れるところに置かない

● 不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や高い棚の上など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

● 台車などの上で使用する場合

車輪をロックしてください。

●雷が鳴ったら、電源プラグに触れない

●リモコンについて

リモコンを分解・改造しないでください。感電・やけど・けがをする原因となります。内部の点検・調整・修理はお買い上げの販売店または修理に関するお問い合わせ窓口にご依頼ください。

リモコンに水のかからない状態で使用してください。水がかかると火災や感電の原因となります。

●無線アダプターの電波について（一部の機種に付属）

航空機内や病院など、使用を禁止された場所では絶対に使用しないでください。電子機器や医用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。

高精度な電子機器または微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、使用しないでください。電子機器が誤作動するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。

- ペースメーカー、その他医用電気機器を使用されている方は、医師または医用電気機器メーカーにご相談ください。

⚠注意

●電源コードについて

電源コードは使い方を誤ると、火災・感電の原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない（必ず電源プラグを持って抜く）
- 電源プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む
- 使用後は、本機の電源プラグをコンセントから抜く
- 長時間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く
- 電源プラグは年1回以上コンセントから抜いて、電源プラグの刃と刃の周辺部分にほこりがたまらないように乾いた布や掃除機で清掃する
- 電源コード（特に電源プラグ部分）の清掃には、洗剤を使用しない
- 本体を移動させる場合は、電源を切り、電源コードを取り外す

●大切なデータは控えをとる

本機に記憶させた内容は、ノートに書くなどして本機とは別に必ず控えを残してください。本機の故障、修理などにより、記憶内容が消えることがあります。

●投映中にレンズの前に水槽などレンズ効果をもたらす物を置かない

火災の原因となることがあります。

●投映中にレンズの前に光をさえぎるものを置かない

火災の原因となることがあります。

●投映レンズには手を触れない

● 無線アダプターについて
（一部の機種に付属）

本体から取り外した状態の無線アダプターを乳幼児の手の届く場所には置かないでください。誤って飲み込んで窒息したり、傷害を負うなどの原因となる場合があります。

電池について

⚠ 危険

アルカリ電池からもれた液が目に入ったときは、すぐに次の処置を行ってください。

1. 目をこすらずにすぐにきれいな水で洗い流す。
2. ただちに医師の治療を受ける。そのままにしておくと失明の原因となります。

⚠ 警告

電池は使い方を誤ると液もれによる周囲の汚損や、破裂による火災・けがの原因となります。次のことは必ずお守りください。

- 分解しない、ショートさせない
- 加熱しない、火の中に投入しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池を混ぜて使用しない
- 充電しない

- 極性（⊕と⊖の向き）に注意して正しく入れる

⚠ 注意

電池は使い方を誤ると液もれによる周囲の汚損や、破裂による火災・けがの原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。

- 本機で指定されている電池以外は使用しない

● 使い切った電池は直ちに本機から抜く

- 長時間使用しないときは、リモコンから電池を取り外しておく

● 電池を廃棄する場合は、必ず地域の条例や自治体の指示に従って廃棄する

その他

⚠ 注意

内部にホコリが付着したまま長時間清掃をしないと、火災や故障の原因となることがあります。1年に一度は、内部の清掃（有償）を、お買い上げの販売店または修理に関するお問い合わせ窓口にご依頼ください。

● 本機を廃棄する場合は、必ず地域の条例や自治体の指示に従って廃棄する

3D映像の鑑賞について

⚠ 警告

次のような人は3D映像を見ないでください。体調を損なう恐れがあります。

- 心臓に疾患のある人
- 光過敏の既往症のある人
- てんかんの可能性がある人

⚠ 注意

次のような場合は3D映像を見ることはやめてください。

- 体調の悪いときは、3D映像を見ないでください。体調を損なうことがあります。
- 3D映像を見ているときに、疲労感、体調の悪化、感覚の異常を感じたときは、見るのをやめてください。症状が悪化することがあります。
- 3D映像が二重に見え始めたり、立体感がなくなったように感じ始めたりしたら、見るのをやめてください。目の疲れの原因となることがあります。

3D映像を長時間見つづけることは避けてください。目の疲れの原因となることがあります。

3D映像を見るときは、次のことをお守りください。

● 周囲の人や物に注意する

3D映像を見ているときは、急に周囲の人や物に手を伸ばしたり、急に体を動かしたりしないようにご注意ください。距離感を誤って周囲の人にけがをさせたり、周囲の物を壊してけがをしたりする原因となることがあります。

● 3Dグラスを着用する

3Dグラスを着用しないで3D映像を見ると、目の疲れの原因となることがあります。3D映像を見るときは、指定の3Dグラスを着用してください。

● 日常生活時と同等の視力を確保する

日常的に視力矯正メガネや視力矯正コンタクトレンズを使用している人は、通常使用しているメガネやコンタクトレンズなどを着用したうえで3Dグラスを着用してください。視力を矯正せずに3D映像を見ると、目の疲れや視覚異常の原因となることがあります。

3D映像を見ることができる年齢は、6歳以上が目安です。お子様が3D映像を見る場合は、保護者の方が十分にお子様の様子に注意を払い、3D映像を見て良いかどうかの判断や、3D映像を見つづける時間の制限などの管理をしてください。

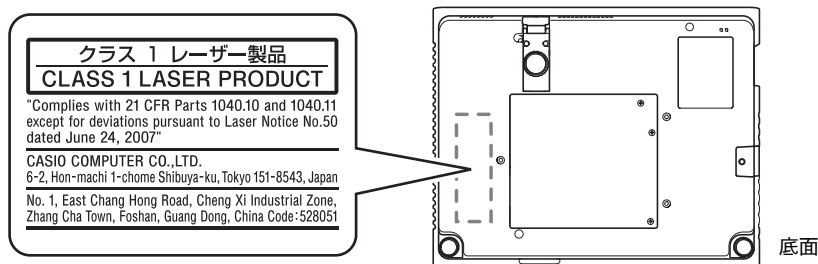
使用上のご注意

光源ユニットについて

- 本機の光源ユニットには、レーザーおよびLEDを使用しております。
- 光源ユニットの寿命（目安）は、約20,000時間です（光源ユニットの個体差や使用条件、設定メニューの各設定状態などによって差があります）。
- 光源ユニットの保証期間は、保証書記載の製品保証期間または6,000時間のどちらか早い方です。
- 光源ユニットが点灯しなくなった場合や、光源ユニットの明るさが著しく暗くなった場合は光源ユニットの寿命です。お買い上げの販売店または修理に関するお問い合わせ窓口に交換をご依頼ください。本機を分解・改造した場合は、保証および修理の対象外になります。

レーザーに関するご注意

本機は、IEC 60825-1に適合したクラス1レーザー製品です。

- 本機はレーザーモジュールを内蔵しています。分解・改造は危険ですので行わないでください。
- 取扱説明書に指定した以外の手順で操作や調整を行うと、危険なレーザー放射にさらされる原因となることがあります。

無線アダプター（USB端子付きモデルに付属）の使用に関するご注意

- **2.4GHz帯使用の無線機器について**
  - 無線アダプターは2.4GHz帯を使用し、変調方式はDS-SSおよびOFDMです。また、想定される与干渉距離は約40mです。
  - 無線アダプターの使用周波数帯（2.4GHz）では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局が運用されています。

1. 無線アダプターを使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、無線アダプターと移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局との間で、電波干渉が発生した場合には、速やかに通信チャンネルを変更するか、使用する場所を変えるか、無線アダプターの使用を停止してください。
3. 不明な点がある場合やお困りの場合は、お買い上げの販売店または修理に関するお問い合わせ窓口にお問い合わせください。

- **無線アダプターは、電波法に基づいて技術基準適合証明を受けていますので、無線局の免許は不要です。また、無線アダプターは日本国内でのみ使用できます。**

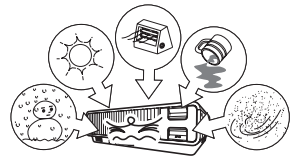
- **無線アダプターは、技術基準適合証明を受けていますので以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。**
  1. 分解および改造すること
  2. 無線アダプターに貼ってある証明ラベルをはがすこと

使用上のご注意

- **Bluetoothや無線LANは、無線アダプターと同じ周波数帯(2.4GHz)を使用しています。これらを利用した製品と無線アダプターとの間で、互いに電波障害を与えることがあります。**
- **下記のような環境では、電波状態が悪くなったり、電波が届かなくなったりします。**
  - 電子レンジ等の磁場、静電気、不要輻射電波の発生する機器の近く
  - 鉄筋コンクリート(マンションなど)の建物内
  - 鉄骨構造の建物内
  - 大型金属製家具の近く
  - 各無線機器の間に人が入ったり、間を人が横切るとき
  - 各無線機器が別々の部屋にある場合(障害物がある場合)
- **電波の性質と強さ**
  - 電波には、障害物があると反射したり屈折したりする性質があります。そのため、各無線機器に届く電波には、直接届く直接波と反射して届く反射波があります。
  - 建物内には、多くの家具、品物、壁がありますので、さまざまな反射波が発生します。この反射波によって、電波状態の良い場所と悪い場所ができます。このため、各無線機器を少し動かすと、状況が良くなることがあります。
- **電波を使用している関係上、第三者が故意または偶然に傍受することも考えられます。機密を要する重要な事柄や人命に関わることには使用しないでください。**

その他のご注意

本機は精密な電子部品で構成されています。データが正常に保持できなくなったり、故障の原因になりますので、以下のことに注意してください。

- **次のような場所での使用や保管は避けてください。本機の故障・破損の原因になります。**
  - 静電気が発生しやすいところ
  - 極端に高温または低温のところ
  - 湿度の高いところ
  - 急激な温度変化が起こるところ
  - ほこりの多いところ
  - ぐらついたところや傾いた不安定な場所
  - 水に濡れるような場所
- **次のような使用方法は避けてください。本機の故障・破損の原因になります。**
  - 低温や高温の環境では使用しないでください(5℃～35℃の環境でご使用ください)。
  - 本機の上に重い物をのせたり、本機の上にのらないでください。
  - 本機の中に物を落としたり、入れたりしないでください。
  - 本機の上に花瓶など水が入った物を置かないでください。

- **設置するときや、設置のために底面の操作をするときは、本体の下に手を挟まないようにご注意ください。**
- **消耗した電池をリモコンに取り付けたまま長期間放置しないでください。**

電池が液もれすることがあります。液もれは故障・破損の原因になることがあります。

- **お手入れの際は、乾いた柔らかい布をご使用ください。**

特に汚れがひどい場合は、中性洗剤に浸した布を固くしぼっておふきください。なお、シンナーやベンジンなどの揮発性溶剤は使用しないでください。文字が消えたり、ケースにシミをつけてしまう恐れがあります。

- **画面のドット欠けについて**

本商品は、非常に高度な技術を駆使して作られておりますが、画面の一部に非点灯などのドットが存在することがあります。これは故障ではありません。

- **投映中は本体に衝撃を加えないでください。**

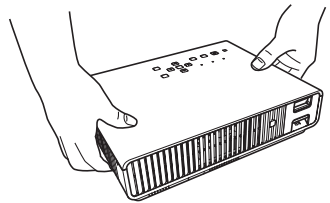
投映中に本体に衝撃を加えると、投映が一時的に途切れた後に、画面の変色やエラーが発生することがあります。
画面が変色した場合は、本体またはリモコンの[INPUT]キーで投映していた入力ソースを選択し直すと、元の色に戻ります。元の色に戻らない場合は、「電源を切るには」(J-14ページ)に従って電源を切ってから、再度電源を入れてください。
エラーが発生した場合の対処については、付属のCD-ROMに収録されている「活用ガイド」の「エラー発生時の各種表示について」を参照してください。

- **台形補正時画質について**

台形補正操作を行うと画像が圧縮されるため、画像が乱れたり画質が低下する場合があります。このような場合は、可能な限り「設置するには」(J-11ページ)のイラストの設置状態に近づけてください。イラストの設置状態に近いほど台形補正は少なくて済み、イラストどおりに設置すれば台形補正は不要となります。
画質を重視する場合は、台形補正機能が不要な位置に設置の上、補正を解除してご使用ください。

- 本機は、24時間連続使用などの長期連続運転での使用や本書で規定しております「設置場所に関するご注意」(J-12ページ)の設置条件を無視して使用された場合、保証期間であっても有償保証とさせていただきます。

本体の移動時の注意

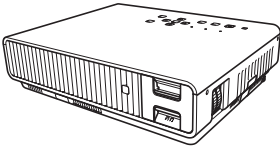
動作中および電源を切った直後は、排気口およびその周辺が高温になっております。本機を移動する際は、図のように必ずプロジェクターの両側面を持つようご注意ください。

キャリングバッグへの収納について

本体が冷えてからキャリングバッグに収納してください。

クリーニングについて

- 本機外部/レンズ/吸気口/排気口/通気口は、定期的にクリーニングしてご使用ください。
- 吸気口にはゴミやほこりがたまりやすいので、電気掃除機を使い、時々ていねいに吸い取ってください。
- 吸気口にほこりがたまったままで本機をご使用になると、本機内部の温度が過度に上昇し、故障の原因となります。
- ご使用の環境によっては、排気口や通気口にもほこりやゴミがたまることがあります。このような場合は、吸気口と同様にクリーニングしてください。

内容物のご確認

パッケージには以下の内容物が含まれていますので、ご確認ください。

データプロジェクター

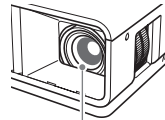
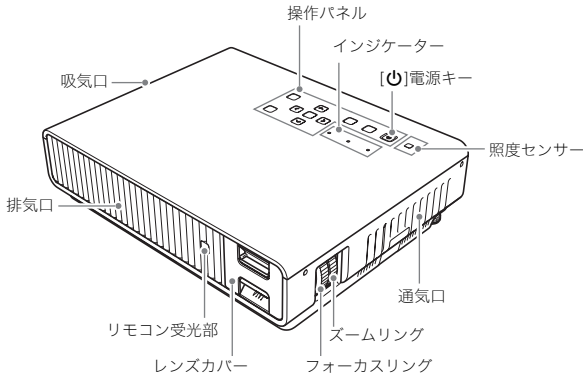
リモコン（YT-120）

ミニD-Subケーブル

- 試用乾電池（単四×2本）
- 電源コード
- キャリングバッグ
- CD-ROM
- セットアップガイド（本書）
- 「ご使用前にお読みください」
- 保証書

USB端子付きのモデルの場合
- 注意シール（2.4GHz帯使用の無線機器について）
- 無線アダプター

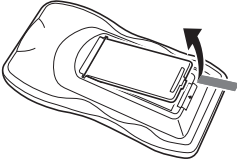
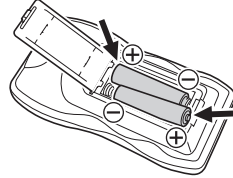
各部の名称

クラス1レーザー製品

使用前の準備

リモコンに電池を入れるには

重要！

- **必ずアルカリ電池をご使用ください。**

1. リモコン背面の電池ブタを開く。

2. 新しい乾電池を＋/－の向きに注意しながら取り付ける。

3. 電池ブタを閉じる。

リモコンの電池を交換する

上記同様に電池ブタを開き、古い電池と新しい電池を交換してください。

重要！

- **電池が消耗しますので、保管時はキーが押されないようにご注意ください。**

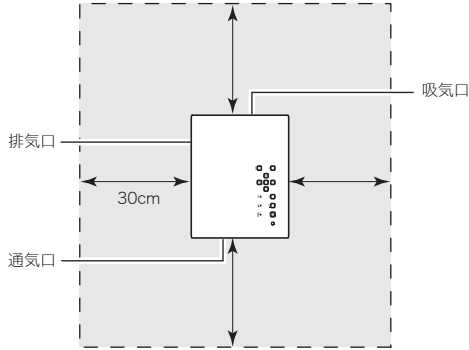
設置するには

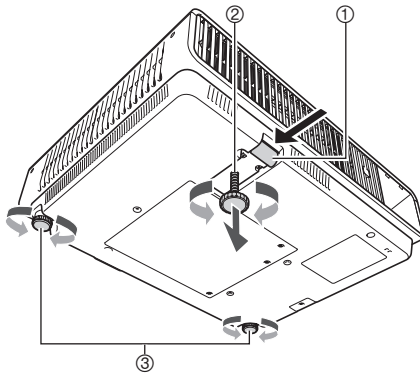
周囲に十分な余裕がある、しっかりした机や台の上などに設置してください。投映するスクリーンに対して次のように設置すると、最適な映像を得ることができます。

XJ-M140/XJ-M145/XJ-M150/XJ-M155	XJ-M240/XJ-M245/XJ-M250/XJ-M255
本機とスクリーンが直角になるように設置します。	本機のレンズ側をテーブルの端近くに寄せて設置してください。

- 本機は天井から吊して設置することが可能です。付属のCD-ROMに収録されている「活用ガイド」の「本機を天井から吊して設置する」をお読みになった上で、販売店にお問い合わせください。
- 本機はリアプロジェクション（スクリーン背面からの投映）が可能です。詳しくは、付属のCD-ROMに収録されている「活用ガイド」をご覧ください。

設置場所に関するご注意

- いつでも電源プラグが抜けるよう、電源プラグに手が届く場所でお使いください。
- 図に示す範囲（本機の周囲30cm以内）には物を置かないでください。特に吸気口や排気口、通気口の30cm以内に障害物や物を置かないでください。
- 空調の風向きにより、レンズ付近に本機の排気熱が当たると投映画面に揺らぎが発生することがあります。その場合、空調の風向きや本機の設置位置を変更してご使用ください。

角度を調整するには

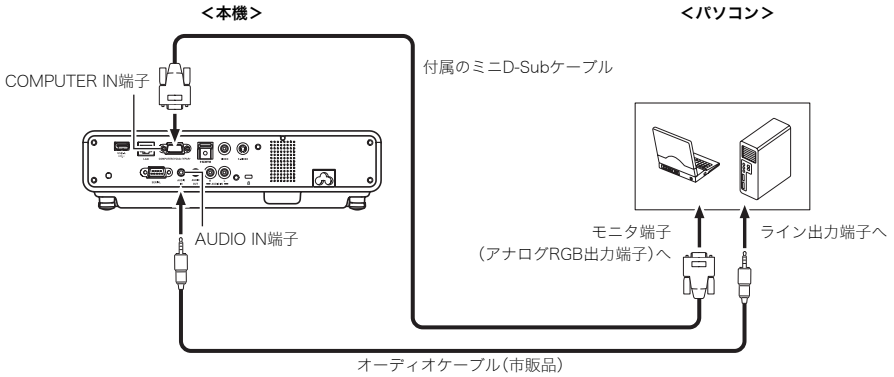
1. 本体の手前を持ち上げて、リリースボタン①を押す。
- フロントフット②が引き出されます。

2. フロントフットの高さを大まかに決めて、リリースボタンを放す。
- リリースボタンを放した位置で、フロントフットが固定されます。

3. フロントフットを回して、本機の仰角を微調整する。

4. リアフット③を回して、本機の左右の傾きを微調整する。

重要!
- **フロントフットをしまう時は、リリースボタンを押してからフロントフットを押し込んでください。リリースボタンを押さずに無理に押し込まないでください。**

パソコンと接続するには

パソコンのアナログRGB端子と本機のCOMPUTER IN端子を下図のように接続します。

重要!

- **本機とパソコンの電源を切った状態で接続してください。**
- **パソコンからの音声出力を大きくしすぎないようにしてください。**

メモ

- パソコン以外の外部入力ソース(ビデオ機器など)との接続については、CD-ROM収録の「活用ガイド」をご覧ください。

D

投映の開始と終了

投映を開始するには

1. **付属の電源コードを使って、本機をコンセントに接続する。**

2. **本機と接続したパソコンの電源を入れる。**

3. **本機のレンズカバーを取り外す。**

- レンズカバー内側のつまみを上下から押すと、取り外すことができます。

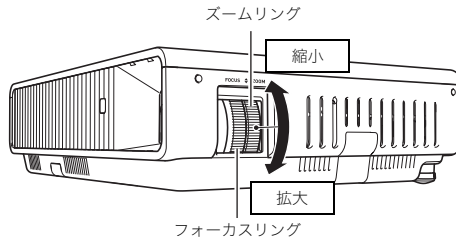
4. **[⏻]（電源）キーを押して、本機の電源を入れる。**

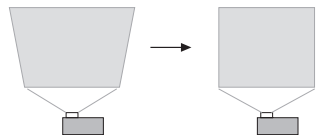
- はじめて本機の電源を入れたときは、投映画面の中央に「言語初期設定」画面が表示されますので、言語を選択してください。

5. **入力ソースを選ぶ。**

- [INPUT]キーを押すと入力ソースの一覧が表示されるので、[▼]キーまたは[▲]キーを使って「Computer」を選び、[ENTER]キーを押してください。

6. **投映サイズを調節し、焦点を合わせる。**

- 投映サイズの調節はズームリングで、焦点合わせはフォーカスリングで行います。

メモ

- 本機は、投映角度によって映像が台形に歪むのを防ぐ「台形補正」機能を備えています。本機は縦方向の傾きを検知して、台形補正を自動的に行います。手動で台形補正をしたい場合は、[KEYSTONE ＋]キーまたは[KEYSTONE －]キーを押してください。

電源を切るには

1. **本機の電源が入っているときに、[⏻]（電源）キーを押す。**

- 確認メッセージが表示されます。電源を切らない場合は、約10秒間放置してください。確認メッセージが消え、投映が継続されます。[ESC]キーを押した場合も、確認メッセージは消えます。

2. **確認メッセージの表示中に[⏻]（電源）キーを押して電源を切る。**

3. **POWER/STANDBYインジケーターがオレンジ色の点滅から点灯に変わったのを確認し、電源プラグをコンセントから抜く。**

CD-ROMの使い方

付属のCD-ROMには各種のソフトウェアや、PDFファイル形式の取扱説明書が収録されています。取扱説明書(PDF)を読むには、Adobe® Reader®が必要です。

取扱説明書(PDF)を読むには

1. 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。

2. 次のいずれかの操作を行う。

- CD-ROMのメニュー画面が表示された場合:
  ①メニュー画面の「取扱説明書」右側の[フォルダを開く]ボタンをクリックする。
  ②「User' s Guide」フォルダーが開くので、希望する言語のフォルダーを開く。
- CD-ROMのメニュー画面が表示されない場合:
  ①CD-ROMを開く。
  ②「User' s Guide」フォルダーを開き、希望する言語のフォルダーを開く。

3. 読みたい取扱説明書のファイルをダブルクリックする。

取説名	内容	ファイル名
活用ガイド	プロジェクター本体に関する、より詳しい操作方法を説明しています。	UsersGuide_Japanese.pdf
USB拡張機能ガイド(USB端子付きモデルのみ)	プロジェクター背面のUSB端子にUSBメモリー、マルチプロジェクションカメラ(YC-400/430/470)、グラフ関数電卓を接続して使うときの操作を説明しています。	USB_Guide_Japanese.pdf
ワイヤレス機能ガイド(USB端子付きモデルのみ)	プロジェクターとパソコンを無線LANで接続し、パソコンのディスプレイ内容をプロジェクターから投映する操作を説明しています。	WirelessGuide_Japanese.pdf

- ファイルをダブルクリックするとAdobe Readerが起動し、取扱説明書が表示されます。
- ファイル名の後ろの「.pdf」は、パソコンの設定により表示されない場合があります。

ソフトウェアのインストールについて(USB端子付きモデルのみ)

付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットすると表示されるメニュー画面から、次のソフトウェアをインストールすることができます。各ソフトウェアのインストール方法については、下表の「参照先」に記載されている取扱説明書をご覧ください。

ソフトウェア名	概要	参照先
Wireless Connection 3	プロジェクターとパソコンをワイヤレスで接続するためのソフトウェアです。	ワイヤレス機能ガイド(WirelessGuide_Japanese.pdf)
EZ-Converter FA	PowerPointファイルをECA/PtGファイルに変換するためのソフトウェアです。	USB拡張機能ガイド(USB_Guide_Japanese.pdf)
ArcSoft MediaConverter 3 for CASIO Projector	動画ファイルを変換するためのソフトウェアです。	
マルチプロジェクションカメラ更新ソフトウェア	マルチプロジェクションカメラYC-400/YC-470のファームウェアを更新するためのソフトウェアです。	

インジケーター表示について

本機の状態を、上面の各インジケーターの色や点灯／点滅状態によって判別することができます。正常時のインジケーター表示は下表のとおりです。

インジケーター表示			本機の状態
POWER/STANDBY	LIGHT	TEMP	
● オレンジ	● オレンジ	● オレンジ	本機の電源コードをコンセントに接続した直後です。スタンバイ状態（下記参照）になるまでは、本機の電源を入れることはできません。
● オレンジ	○	○	本機の電源コードがコンセントに接続されており、スタンバイ（待機）状態です。
◎ 緑	● オレンジ	● オレンジ	本機の電源を入れた直後のウォームアップ中です。
● 緑	○	○	本機の電源が入り、使用可能な状態です。
◎ オレンジ	○	○	本機の電源を切った直後の内部処理中です。
● 緑	● 緑	○	本機の「エコモード」が「オン（自動）」または「オン（手動）」に設定されています。

● ....点灯　◎....点滅　○....消灯

- 上記以外のインジケーター表示（赤点灯など）や投映画面に警告メッセージが表示された場合は、本機に何らかのエラーが発生しています。エラー発生時のインジケーター表示と警告メッセージについて詳しくは、付属のCD-ROMに収録されている「活用ガイド」をご覧ください。

故障かな？と思ったら

本機の使用中に何らかのトラブルが発生した場合は、故障とお思いになる前に、以下をご確認ください。

現象	原因と対処
電源が入らない	● POWER/STANDBYインジケーターが点灯していない場合は、電源コードが正しく接続されていません。電源コードを正しく接続してください。 ● TEMPまたはLIGHTインジケーターが点滅（点灯）し続けたまま消灯しない場合は、何らかのエラーが発生しています（「活用ガイド」の「エラー発生時の各種表示について」参照）。
映像がまったく投映されない、または正常に投映されない	● 本機と接続しているパソコンやビデオ機器の電源が入っていなかったり、ビデオ信号が出ていないことが考えられます。接続しているパソコンやビデオ機器の電源が入っており、正常に動作していることをご確認ください。 ● 正しい入力ソースが選択されていないことが考えられます。本機に接続している機器に合わせて入力ソースを正しく選択してください。 ● ビデオ機器のコンポーネント出力端子と本機のCOMPUTER IN端子を接続した場合、ビデオ機器によっては、映像が正しく投映されない場合があります。本機のVIDEO端子またはS-VIDEO端子をご使用ください。
色や表示が極端にずれる	設定メニューの「入力設定→COMPUTER端子」の設定として、誤って「コンポーネント」または「RGB」が選択されていることが考えられます。本機のCOMPUTER IN端子とパソコンのRGB出力端子を接続しているときに「コンポーネント」が選択されているか、本機のCOMPUTER IN端子とビデオ機器のコンポーネントビデオ出力端子を接続しているときに「RGB」が選択されている場合は、映像が正しく表示されません。設定メニューの「入力設定→COMPUTER端子」を「自動」に切り替えてください（「活用ガイド」参照）。
メッセージやメニューが日本語で表示されない（言語が変わってしまった）	次の操作で、言語を「日本語」に設定してください（「活用ガイド」参照）。 1. [MENU]キーを押して設定メニューを表示する。 2. 入力信号がHDMIの場合は[▼]を4回押してから、[ENTER]キーを押す。入力信号がHDMI以外の場合は[▼]を5回押してから、[ENTER]キーを押す。 3. [▲]を2回押してから[ENTER]キーを押して、言語選択メニューを表示する。 4. [▼]/[▲]を使って「日本語」を反転させ、[ENTER]キーを押す。 5. [MENU]キーを押して設定メニューを消す。
音が出ない	● 本機の音量設定が小さすぎるか、消音（ミュート）状態になっていることが考えられます。リモコンの[VOLUME]キーを押し、[▼]/[▲]を使って音量を調節してください（「活用ガイド」参照）。 ● 本機と接続した機器の音量が小さすぎるか、音が出ていないことが考えられます。接続した機器の音量を調節してください。 ● 本機のAUDIO IN端子またはAUDIO IN L/R端子に、機器の音声出力が正しく接続されていないことが考えられます。機器に応じた項目を参照し、接続状態をご確認ください（「パソコンと接続するには」、および「活用ガイド」の「ビデオ機器との接続」参照）。 ● 設定メニューの「機器設定2→音声出力」が「ライン」に設定されていることが考えられます。「音声出力」の設定を「スピーカー」に切り替えてください（「活用ガイド」参照）。
色がおかしい	入力信号と本機の設定が合わないことが考えられます。次の操作をお試しください（「活用ガイド」参照）。 － [BRIGHT]キーを押して、明るさを調節する。 － [COLOR MODE]キーを押して、カラーモードを変更する。 － 設定メニューの「映像調整1→カラーバランス」を使って、映像のカラーバランスを調整する。

故障かな？と思ったら

現象	原因と対処
文字がぼやける	● 焦点が合っていないことが考えられます。フォーカスリングを回して、焦点を合わせてください。 ● 周波数や位相の設定が入力信号と合わないことが考えられます（入力ソースがRGB信号の場合のみ）。[AUTO]キーを押して、自動調整を行ってください。 ● 設定メニューを使って「映像調整2→周波数」と「映像調整2→位相」を調整してください（入力ソースがRGB信号の場合のみ）（「活用ガイド」参照）。 ● 入力ソースがビデオカメラや書画カメラの場合は、入力ソース機器に問題がないかご確認ください。
「パスワードを入力してください」というメッセージから先に進めない	設定メニューの「機器設定1→パワーオンパスワード」が「オン」に設定されています。正しいパスワードを入力し、[ENTER]キーを押してください（「活用ガイド」参照）。
リモコンで操作できない	● リモコンの電池が消耗していることが考えられます。電池を交換してください。 ● リモコンの操作可能範囲外で操作していることが考えられます。操作可能範囲内から操作してください（「活用ガイド」参照）。
TEMPまたはLIGHTインジケーターが点滅（点灯）している	何らかのエラーが発生しています（「活用ガイド」の「エラー発生時の各種表示について」参照）。
光源ユニットが点灯しなくなった	光源ユニットの寿命または故障と考えられます。お買い上げの販売店または修理に関するお問い合わせ窓口に交換をご依頼ください。

重要！

- **以下の操作により正常に戻る場合がありますのでお試しください。**

  1. 電源コードを取り外し、10分以上放置する。
  2. 再度電源コードを接続し、電源を入れる。

- **この操作を行っても、動作が正常に戻らないときは、お買い上げの販売店または修理に関するお問い合わせ窓口にお問い合わせください。**

主な仕様

モデル名	XJ-M140/XJ-M145/ XJ-M240/XJ-M245	XJ-M150/XJ-M155/ XJ-M250/XJ-M255
明るさ (ANSIルーメン)※	2500	3000
使用環境	動作温度:5〜35℃ 動作湿度:20〜80%(ただし結露しないこと) 動作高度:海抜0〜3,000m	
電源	AC100V、50/60Hz、2.3A	
消費電力	150W(エコモード「オン」でエコレベル 時) 190W(エコオフモード「ブライト」選択時)	
外形寸法	幅約311mm×奥行き約244mm×厚さ約84mm	
質量	約3.9kg	

※JIS X 6911: 2003準拠
改良などのため、仕様は予告なく変更されることがあります。

Manufacturer:
CASIO COMPUTER CO., LTD.
6-2, Hon-machi 1-chome, Shibuya-ku, Tokyo 151-8543, Japan

Responsible within the European Union:
CASIO EUROPE GmbH
Casio-Platz 1, 22848 Norderstedt, Germany